

都市再生整備計画 事後評価シート

(安城駅都市拠点地区(地方都市リノベーション事業))

令和 2年 3月

愛知県安城市

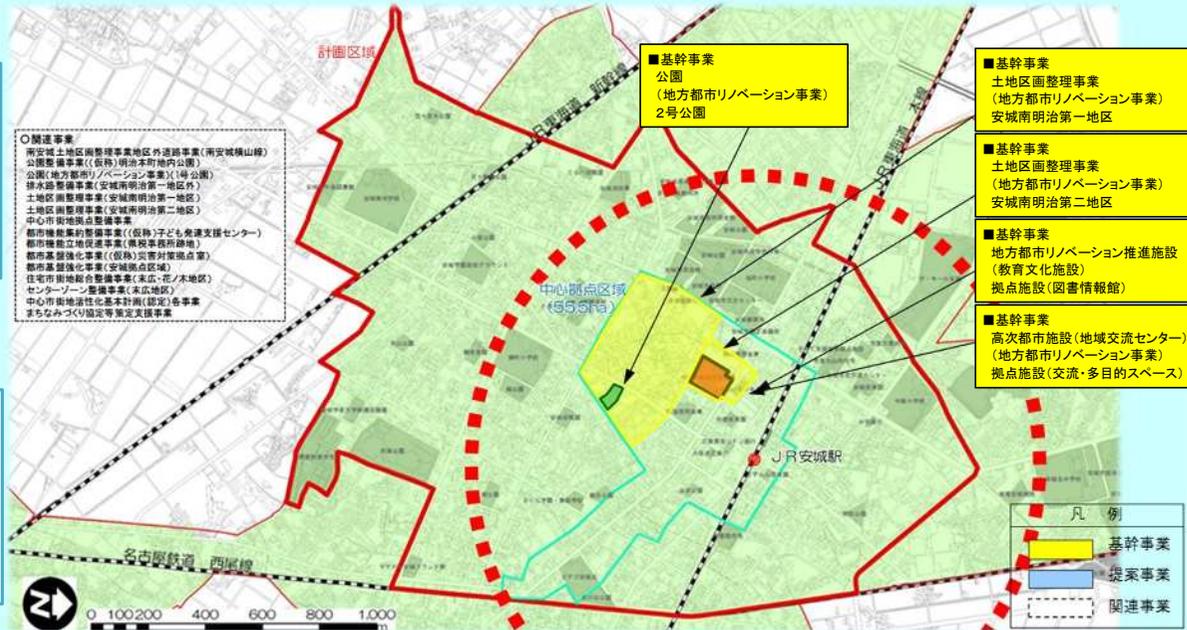
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	安城市	計画名	安城駅都市拠点地区			面積	305.2ha				
交付期間	平成27年度～平成31年度	事後評価実施時期	平成31年度	全体事業費	3,399百万円	国費率	0.5						
1)事業の実施状況 添付資料1-①② ※様式3 該当なし	当初計画に 位置づけ、 実施した事業	基幹事業	公園(地方都市リノベーション事業):2号公園、高次都市施設(地域交流センター)(地方都市リノベーション事業):拠点施設(交流・多目的スペース、高次都市施設(子育て支援センター)(地方都市リノベーション事業):拠点施設(子育て支援スペース)、地方都市リノベーション推進施設(教育文化施設):拠点施設(図書情報館)、土地区画整理事業(地方都市リノベーション事業):安城南明治第一地区 安城南明治第二地区										
		提案事業	-										
	当初計画 から 削除した 事業	基幹事業	事業名	公園(地方都市リノベーション事業):1号公園	削除/追加の理由	公園:区画整理事業の進捗により計画期間内の整備が困難になり、第3回計画変更において基幹事業から関連事業に移行して実施することにしたため、本事業を基幹事業から削除した。			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	1号公園:指標3「コミュニティバス利用者数」に関しては若干影響があるが、地区内の公園整備や拠点施設の整備等他事業の実施により、指標の目標値の達成は見込めることから指標の変更は行わない。よって、本事業削除による影響は基本的にはないものと考え。			
			提案事業	-	-	-	-	-	-				
		高次都市施設(子育て支援センター)(地方都市リノベーション事業):拠点施設(子育て支援スペース)	高次都市施設:計画策定時に想定した活動支援対象が事業の進捗の中で多様に展開したことから、第2回計画変更において基幹事業から関連事業に移行して実施することとしたため、本事業を基幹事業から削除した。	高次都市施設:当初想定した以上の複合的活用が見込まれることから、影響なし。									
	新たに追加した事業	基幹事業	-	-	-	-	-	-	-				
		提案事業	-	-	-	-	-	-	-				
	交付期間 の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
		変更	-										
	2)都市再生整備計画 に記載した、定量的指標 の達成状況 添付様式2-① ※様式3 2-II	指標		当初現況値	最終目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み					
指標1		拠点施設利用者数 (都市機能の集約効果)	人/年	401,400	H27	445,000	H31	-	1,105,716	○	あり なし	JR安城駅を中心とする中心市街地において、中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)内に「図書情報館」や「ほっとスペース(つどいの広場)」など様々な機能が集約されたことで、利便性や来訪意欲の向上から年間利用者数の大幅な増加につながったと考える。	R2年7月
指標2		安全・安心生活エリアカバー率 (都市基盤の再編効果)	%	68.0	H27	88.7	H31	-	94.2	○	あり なし	安城南明治第一地区及び安城南明治第二地区における土地区画整理事業の進捗により、公共施設整備が着実に進捗したことで、災害に対する都市機能及びまちなか居住機能集積区域の安全性が確保され、多世代の住民が「快適に交流し暮らし続けることができる安全・安心生活エリア」が拡大したと考える。	R2年7月
指標3		コミュニティバス利用者数 (中心市街地の人の集積・交流)	人/年	83,700	H27	98,000	H31	-	114,826	○	あり なし	安城南明治第一地区及び安城南明治第二地区における都市計画道路の整備や土地区画整理事業により、まちなか居住の適正誘導を図る基盤整備が進捗するとともに、中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)の整備をはじめとする拠点施設の整備や公園の整備により、都市拠点内のコミュニティバス利用者数が増加したと考える。	R2年7月

	指標		当初現況値		最終目標値		数 値		目標	1年以内の	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み					
3) 定量的指標以外の 交付対象事業の効果の 達成状況 添付様式2-② ※様式3 2-Ⅲ	その他の 数値指標1	図書情報館の利用者数	人/年	389,604	H27		—	784,302			新たに加わった複合的な機能を含めた施設利用者のみならず、図書情報館利用者数を確認することで、都市機能を集約した結果、相乗的に図書情報館利用者数が増加し、中心市街地における賑わいに寄与しているものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標2	図書貸出冊数	冊/年	1,825,644	H27		—	2,178,256			図書館本来の機能である貸出冊数を図書情報館利用者数とあわせて確認することで、図書情報館利用者数が増加していることを補足的に説明することができる。	R2年7月
	その他の 数値指標3	交流・多目的スペース利用回数	回/年	4,021	H29		—	5,337			都市機能を集約したことで利便性が向上し、交流・多目的スペースの利用者数の増加に寄与しているものと考えられる。また、交流・多目的スペースの利用者が拠点施設やその周辺の施設等を利用することで、中心市街地における賑わいに寄与しているものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標4	交流・多目的スペース催事実施件数	回/年	654	H29		—	1,919			都市機能を集約したことで利便性が向上し、交流・多目的スペースでの催事回数の増加に寄与しているものと考えられる。また、催事参加者が拠点施設やその周辺の施設等を利用することで、中心市街地における賑わいに寄与しているものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標5	都市機能誘導区域内の都市機能の密度	%	64.0	H27		—	90.5			拠点施設の整備及び都市基盤整備の進捗により、都市機能誘導区域内の都市機能の増加に寄与しているものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標6	幹線道路の寄与率 (寄与率%)は、各土地画整理事業の全区域に占める面積割合を示している)	%	7.47(南明第一) 74.59(南明第二)	H27		—	46.73(南明第一) 78.03(南明第二)			幹線道路、区画道路、公園それぞれの整備が着実に進捗したことにより、まちなか居住を誘導できる、災害に強く、安心で快適なコンパクトシティ型都市基盤が整備されてきたものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標7	区画道路の寄与率 (寄与率%)は、各土地画整理事業の全区域に占める面積割合を示している)	%	23.08(南明第一) 49.37(南明第二)	H27		—	64.85(南明第一) 58.05(南明第二)			幹線道路、区画道路、公園それぞれの整備が着実に進捗したことにより、まちなか居住を誘導できる、災害に強く、安心で快適なコンパクトシティ型都市基盤が整備されてきたものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標8	公園の寄与率 (寄与率%)は、各土地画整理事業の全区域に占める面積割合を示している)	%	0(南明第一) 0(南明第二)	H27		—	6.61(南明第一) 45.42(南明第二)			幹線道路、区画道路、公園それぞれの整備が着実に進捗したことにより、まちなか居住を誘導できる、災害に強く、安心で快適なコンパクトシティ型都市基盤が整備されてきたものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標9	地区内排水路の整備率 (整備率%)は、各土地画整理事業の雨水排水路について全計画に占める整備済みの延長割合を示している)	%	19.1(南明第一) 98.7(南明第二)	H27		—	70.6(南明第一) 100(南明第二)			土地画整理事業の着実な進捗と、あわせて雨水排水路の整備が行われることにより、地区内のまちなか居住を誘導できる、災害に強く、安心で快適なコンパクトシティ型都市基盤に寄与しているものと考えられる。	R2年7月
	その他の 数値指標10	居住誘導区域(マちなか居住誘導区域)内の人口密度	人/ha	96.9	H27		—	97.8			都市機能を集約した拠点施設の整備や災害に強く、安心で快適なコンパクトシティ型都市基盤への再編を進めたことで、居住誘導区域内の人口密度の増加につながり、まちなか居住の誘導に寄与しているものと考えられる。	R2年7月
4) 定性的な効果発現状況 添付様式2-参考 ※様式3 2-Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)の供用開始以降、アンフォーレを拠点とした活動及び人の流れが生じ、まちなかの交流の場の創出につながっている。 ・公園整備事業においては、2号公園【末広公園】の設計ワークショップに計4回、平均17名、大西公園の設計ワークショップに計3回、朝日公園の設計ワークショップに計4回、平均19名、(仮称)明治本町地内公園【明本公園】の設計ワークショップに計4回、平均24名の参加があり、都市整備への関心やまちづくりへの参加機運が高まった。 ・都市機能集約整備事業の(仮称)子ども発達支援センターの整備においては、郊外や散在していた子育て支援機能をまちなかに集約することで、より円滑な支援ができるようになった。 ・都市基盤強化事業の公園リニューアルにおいては、老朽化した公園の再整備を市民参加のワークショップで設計内容を整理したことで、市民参加の機運を培うとともに、快適なコンパクトシティ型都市基盤の整備が進み、まちなか居住の誘導・定着を促進することに寄与した。 											

		実施内容	実施状況	今後の対応方針等	
5)実施過程の評価 添付様式3 ※様式3 ○	モニタリング	—	都市再生整備計画に記載し、実施できた	—	
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	住民参加 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 公園の設計ワークショップ(2号公園【末広公園】の設計への住民参加) 公園の設計ワークショップ(大西公園の公園リニューアル設計への住民参加) 公園の設計ワークショップ(朝日公園の公園リニューアル設計への住民参加) 公園の設計ワークショップ(〔仮称〕明治本町地内公園【明本公園】の設計への住民参加) 	都市再生整備計画に記載し、実施できた	○	利用しやすい公園であり続けるために、公園利用者や近隣住民と話し合いながら、維持管理活動を実施していく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
	持続的なまちづくり 体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 安城市まちなか賑わい創出プロジェクト① 安城市まちなか賑わい創出プロジェクト② 安城市まちなか賑わい創出プロジェクト③ 	都市再生整備計画に記載し、実施できた	○	中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)を核としたまちなかの賑わい創出を図っていく。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式2-2 計画の概要

計画名(愛知県安城市) 都市再生整備計画の成果概要									
都市再生整備計画の目標		計画の成果目標(定量的指標)		当初現況値		最終目標値		評価値	
目標:安心・快適な、賑わいあふれる中心市街地の形成 ・都市機能の集約を誘導できる、コンパクトで賑わいのある都市拠点の形成 ・まちなか居住を誘導できる、災害に強く、安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤への再編 ・市民が交流できる、安心で快適な賑わいあふれる中心市街地の形成		拠点施設利用者数	(人/年)	401,400	H27	445,000	H31	1,105,716	H31
		安全・安心生活エリアカバー率	(%)	68.0	H27	88.7	H31	94.2	H31
		コミュニティバス利用者数	(人/年)	83,700	H27	98,000	H31	114,826	H31
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p>関連事業 都市基盤強化事業 大西公園</p>  </div> <div style="width: 60%; text-align: center;">  <p>○関連事業 南名城土地区画整理事業地区外道路事業(南安城橋山線) 公園整備事業(仮称)明治不町地内公園 公園(地方都市リノベーション事業)(緑公園) 排水路整備事業(安城南明治第一地区) 土地区画整理事業(安城南明治第一地区) 土地区画整理事業(安城南明治第二地区) 中心市街地拠点整備事業 都市機能集約整備事業(仮称)子ども発達支援センター 都市機能立地促進事業(員数事務所跡地) 都市基盤強化事業(仮称)災害対策拠点(第1号) 都市基盤強化事業(安城拠点区域) 住宅市街地総合整備事業(東広・花ノ木地区) センターゾーン整備事業(東広地区) 中心市街地居住性基盤計画(認定)各事業 まちなみづくり協定等策定支援事業</p> <p>■基幹事業 公園 (地方都市リノベーション事業) 2号公園</p> <p>■基幹事業 土地区画整理事業 (地方都市リノベーション事業) 安城南明治第一地区</p> <p>■基幹事業 土地区画整理事業 (地方都市リノベーション事業) 安城南明治第二地区</p> <p>■基幹事業 地方都市リノベーション推進施設 (教育文化施設) 拠点施設(図書情報館)</p> <p>■基幹事業 高次都市施設(地域交流センター) (地方都市リノベーション事業) 拠点施設(交流・多目的スペース)</p> <p>■関連事業 都市機能集約整備事業 子ども発達支援センター (あんステップ)</p> <p>■基幹事業 高次都市施設 安城南明治第一地区</p> <p>■基幹事業 土地区画整理事業 安城南明治第二地区</p> <p>凡例 ■ 基幹事業 ■ 提案事業 ○ 関連事業</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p>関連事業 都市機能集約整備事業 子ども発達支援センター (あんステップ)</p>  </div> </div>									
<p>【達成されたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)が整備・供用開始されたことにより、都市機能が集約され、中心市街地における賑わいが生まれ、地域の活力の向上に寄与している。 安城南明治第一土地区画整理事業及び安城南明治第二土地区画整理事業が進捗したことにより、まちなか居住を誘導できる、災害に強く、安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤の再編が促進された。 都市基盤の再編の実施によって民間需要が高まり、優良建築物等整備事業が実施され、都市機能の集約及び居住の誘導が図られた。 中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)が整備されたことにより大規模空地は解消され、市民が交流できる、安心で快適な、賑わいあふれる中心市街地の形成が図られた。 図書機能を中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)へ移転したことにより生まれた施設について、都市機能集約整備事業(子ども発達支援センター(あんステップ))に改修することにより、既存ストックを活用し必要な都市機能の再配置を行い、コンパクトで賑わいのある都市拠点の形成を促進した。 郊外に配置されていた子育て支援拠点(旧サルビア学園)を子ども発達支援センター(あんステップ)へ集約することにより都市機能の集約が図られ、関係機関との連携が円滑になった。 安城七夕まつりの会場の一つとして中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)が使用され、賑わいの中心を形成するとともに、新美南吉の物語をイメージしたポケットパークやモニュメントの設置を行い、中心市街地にふさわしい景観の醸成と、市民が交流できる、安心で快適な、賑わいあふれる中心市街地の形成に寄与している。 <p>【未解決の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)の整備等により都市機能が集約され、コンパクトで賑わいのある都市拠点の形成が図られたものの、商業経営者等の後継者不足・高齢化対策や商業機能の誘導については、今後も課題として残っている。 本市は今後も人口が増加することが想定されているものの、一方で市街化調整区域における開発許可件数は増えており、スプロール化の進行が懸念されることから、継続した土地区画整理事業の実施によるコンパクトシティ型都市基盤の再編を実施する必要がある。 都市機能が集約された中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)が整備され、市民が交流できる、安心で快適な、賑わいあふれる中心市街地の形成が図られたが、本市は今後も人口が増加し、それとともに高齢化も進行することが想定されることから、都市機能及び居住機能を誘導する施策を継続して実施する必要がある。 子育て支援関連機能のさらなる連携円滑化に向け、都市拠点域における公園のリニューアル等を進めていく必要がある。 中心市街地拠点施設(愛称:アンフォーレ)整備、安城南明治第一土地区画整理事業及び安城南明治第二土地区画整理事業の事業に合わせ、中心市街地にふさわしい景観の形成を図ってきたものの、未整備地区が残されていることから、今後も継続した事業の実施が必要である。 									
<p>今後の課題の変化 添付様式5-2 ※様式3 3</p> <p>今後の社会資本整備 の方策 (改善策を含む) 添付様式5-③ ※様式3 3</p> <p>・本事業の実施により、まちなか居住を誘導できる、災害に強く、安心で快適な、コンパクトシティ型都市基盤の再編が実施されてきたものの、今後、本市の人口は増加が想定されることや人口の定着を図る必要があることから、都市基盤の整備に加え、民間活力を引き出す都市空間の形成を目指す。</p> <p>・都市基盤の再編により、民間の需要が高まっているため、まちなかに必要な機能の誘致を促進する施策を検討する。</p>									